

職業被ばく情報システム

職業被ばく情報システム しょくぎょうひばくじょうほうしすてむ

ISOE、Information System on Occupational Exposure 職業被ばく情報システムは経済協力開発機構／原子力機関（OECD/NEA）加盟国の原子力発電所に係る被ばく情報交換システムである。目的は放射線業務従事者の被ばく低減である。1987年に設立の検討を開始し、1989年からパイロットプロジェクトを実施、1992年1月よりOECD/NEA放射線防護公共保健委員会の下に正式に発足した。1997年10月から、OECD/NEA非加盟国の参加を得るために、国際原子力機関がISOEの共同事務局として参画している。日本は1992年4月から正式に参加している。運営委員会幹部会の下に4つの技術センターがある。アジア：原子力発電技術機構安全情報研究センター（日本）、欧州：CEPN（Nuclear Protection Evaluation Center、フランス）、北米：イリノイ大学（米国）、IAEA。各センターが電子情報ベースのデータ収集を行い、欧州技術センターが全データを取りまとめ、データベースを整備する。

<登録年月>

2005年10月
